

編集後記

傳統を傳統として永續させる事はとりもなをさず各人の確固たる信念の上に立つ努力がなければ守り切る事は甚だ困難である。

編集室も人員の不足と原稿の不足の上に經濟上の困難が原因したとは言いや何んとしてもあきらめの氣持ばかりが先に立つて何等努力しなかつた爲遂に六月號以降休刊と言う惡名を刻みつけてしまい毎月鶴首されている讀者諸賢には心からお詫び申し上げる。

漸く集つた丈の原稿を整理して十月號を発売する事になつた。毎度お粗末な編集で本当に汗顔の至りだ。今

後編集室の充實を計るは勿論の事だが皆様の絶大なる御支援を期待して本來の「魚と卵」誌に歸りたいと考えている。

本號の中でマラカイトグリーンに依る卵子の消毒經過を二篇掲載したが専門筋より多少訂正する點もあつたので今後の研究結果を期待して止まない。北海道鮭鱒人工孵化事業報告は次號で終了するので三號併せて別刷し配付したいと考えている。

最後に再度申し述べたい事は皆様のお力で傳統を永續させたいと言う事で編集室も大いに書きまくりませうが皆様の多数の御投稿も願つて止まない。

昭和二十八年十月十日發行
毎月十日刊行

札幌市外中ノ島

編集 北海道さけ・ますふ化場
北海道立水産孵化場

電話③〇四三③二二〇

魚と卵編集室

札幌市外中ノ島

發行 北海道鮭鱒保護
協力會連合會

電話③〇二一〇

札幌市南五條西六丁目

印刷 株式会社 岩淺商會印刷工場

電話③一六四五

